

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
発行人 増田 郁夫
〒378-0031 沼田市薄根町4412番地
TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
E-mail : tonekyou@pref.gunma.lg.jp

「いじめ防止活動の成果」 利根教育事務所 管理主監 横坂 隆司

担任した教え子のクラス会に招かれました。いつしか話題は、体育大会の応援合戦のことになりました。水面に見立てたブルーシートの下に生徒全員が入り込んでスタンバイ。ハンガリー舞曲に合わせて、シートの間から生徒が次々に脚や上半身を出し、シンクロナイズドスイミングを踊りました。中学校卒業後20年経っても話題にのぼる理由は、自分たちで考え、内容を工夫し、充実感や成就感を得たからだと考えます。

今年度、群馬県全体で、「いじめ問題対策推進事業」を実施しました。県全体で行われた「いじめ防止サミット」、管内で行われた「いじめ防止フォーラム」はもちろんのこと、各学校や市町村教育委員会から、子どもが主体的に取り組んだことによる成果を耳にしています。

例えば、管内のある学校では、子どもの発案で「ハイタッチによるあいさつ運動」を始めたそうです。その取組が「いじめ防止フォーラム」「いじめ防止サミット」を通して、管内の学校、県内の学校へと広がりを見せたと聞きました。また、ある学校では、アンケートやいじめ防止宣言をもとに、自分たちにできることを、学級や学校全体で話し合い、実践したことが自信となり、結果的に居場所づくりにつながったという話も聞いています。子ども自身の気付きや感性の素晴らしさ、よいと思ったことを積極的に取り入れ行動に移せる実践力を感じました。

また、管内の市町村教育委員会が主催した「いじめ防止子ども会議」では、他校のよい実践を参考にしようという意見を交換する姿、中学生が小学生にアドバイスする姿など、積極的な交流が見られたようです。子どもの主体的で真剣な姿を、来年度は地域の方にも見せたいと考えている市町村も多いと聞いています。

このように、様々な成果があったいじめ防止活動ですが、来年度は、子どもが今年度の経験を生かし、さらに自主的・実践的な活動が行われることが期待されます。そして、何十年経っても「いじめを許さない気持ちや態度」を忘れない大人になることを望みます。

生涯学習係 人権教育に『参加体験型学習』を取り入れてみませんか



人権学習で行う『参加体験型学習』には、どんな「よさ」がありますか？

人権週間に管内の中学校で行った『出前講座』のプログラムを例に説明します。



プログラム(50分) ※アクティビティ=学習のねらいにせまる活動

① アイスブレイキング

『後出しジャンケン』

(後出しで負ける?! ジャンケンでは、「勝とうとする」意識が働いていることに気付く。)

『魚の絵』

(頭はどっち向き? 無意識のうちの「すり込み」に気付く。)

② アクティビティ 『みんなの1円玉』

(1円玉の図柄? 見ているようで、実はよく見ていないということに気付く。)

③ アクティビティ 『1枚の絵から』

(日本のりんご、ノーって? 風評は人を加害者にも被害者にもしてしまうことに気付く。)

④ アクティビティ 『みんなでウハウハ』

(みんなと違うぞ?! 少数派を体験することにより、少数派の気持ちに気付く。)

⑤ ふりかえり 人権啓発詩の朗読、アンケート記入

ゲーム性のあるアイスブレイキングで、楽しく安心して参加できる雰囲気をつくり出せます。

日常生活にあり得そうなことを問題提起する活動(アクティビティ)で、「思い込み」が偏見や差別につながることもあるという「気づき」が生まれたり、その「気づき」が深められたりします。

体験的な活動(アクティビティ)と話し合いを通して、人権問題を自分事として捉えることができ、意識や行動の変容につながります。

互いの「気づき」や考えを共有しながら、人権問題の解決に向け、意欲や行動力を高めることができます。

学習のねらいと参加者の実態等に合わせて、柔軟かつ多彩な学習プログラムを作成することができます。



「講話」や「ビデオ視聴」とは違う利点がある『参加体験型学習』にはあるんですね。



ぜひ、利根教育事務所生涯学習係までご相談ください。

学びあい支援『出前講座』 … 社会教育主事が参加体験型学習等の講師(ファシリテーター)をします。先生方とのTTも可能です。学校の要望に沿ったプログラムを提供します。校内研修やPTAセミナー等でもご活用ください。

学びあい相談 … 参加体験型学習のプログラムづくり、アクティビティや進め方等について情報提供します。

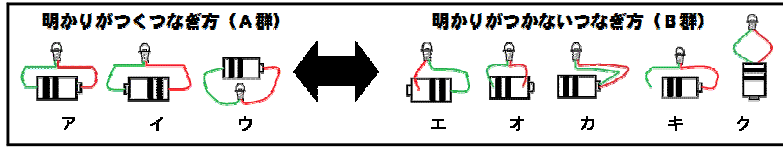
今回は、第26号において「個人で考察する場面」までの構想を示した小学校3年生理科「明かりをつけよう」を取り上げ、「集団で考察する場面」の構想例を紹介します。

本時のねらい：明かりがつくときとつかないときのつなぎ方を比較し、明かりがつくつなぎ方を考察することができる。

個人の考察までの流れ

最終的に「乾電池の+極、豆電球、乾電池の-極が、一つの輪のように導線でつながっているとき豆電球に明かりがつく」という考えにたどり着かせるために、実験結果から最低限気付かせたい3つの考えを構想しました。

〈実験結果〉



どれも導線が+極と-極につながっているよ。

①



導線で一つの輪のようになっているね。

②



乾電池→導線→豆電球→導線→乾電池のようにつながっているわ。

③



〈「利根・沼田の教育」第26号参照〉

〈明かりがつくつなぎ方について集団で考察する場面の構想例〉

ポイント① ねらいに応じて交流の視点を設定する。

最終的にたどり着かせたい考えからみて、①・②・③の一つの考えだけでは不十分だから、A群とB群を比較させながら、「明かりがつくつなぎ方として十分か」を視点として検討させていこう。



ポイント② 子どもの思考の流れを想定して考えを取り上げる順序を検討してみる。

まず、個人の考えを発表させ、①・②・③の考えを基本に類型化しよう。その後、どの考えから検討させたらよいかな？

集団思考の後のまとめの場面で、「回路」という言葉を定義しなければならないから、電気の流れをイメージしやすい②の考えを最後にもっていこう。①と③ではどちらから検討したらよいかな？

集団で考察する場面の構想

①からの場合は…



①の「明かりがつくのは、導線が+極と-極につながっているとき」という考えは、「明かりがつくつなぎ方」として十分かな？

A群の全部に共通しているし、B群にもあてはまってしまうものはないから、これだけで十分だと思うけれど…



【③の考えにつながりにくい】

③からの場合は…



③の「明かりがつくのは、乾電池→導線→豆電球→導線→乾電池のようにつないだとき」という考えは、「明かりがつくつなぎ方」として十分かな？

確かにA群に共通しているよね。でも、それだけだとB群のエやオもあてはまってしまうよ。A群がエやオと違うのは、導線が電池の+極と-極につながっていることだから、①の考えも必要だと思うよ。



【①の考えにつながりやすい】

子どもの思考がつながりやすい③から取り上げよう。

集団思考においては、ねらい達成に向けて、「交流の視点」や「考えを取り上げる順序」などを考えておくことが大切です。